

## グローバルを生き抜く研究者のための英語

研究者にとって今や英語での学術コミュニケーションは必須の技能となっています。しかし、研究者として独立するまでに十分な教育プログラムは提供されず、また、独り立ちした後も十分なサポートが得られないまま苦勞しているのが日本の研究者たちの実情です。すべてが個々の研究者の能力および経済的条件に委ねられている現状を改善するために、学術英語学会(J-SER)では、研究会・学習会・ワークショップなどの企画を通して意見・情報交換や相互啓発の場を設け、学術研究のための「英語の体力づくり」を行っています。



### 入場無料

平成 27 年

5 月 23 日 (土)

会場：東京大学

駒場キャンパス

18 号館ホール

### 開会挨拶及び概要説明 13:00～13:30

トム・ガリー(会長) 崎村 耕二(代表理事)

### 第1部 特別講演 13:30～14:40

#### 「アカデミックライティングの科学：コーパスが拓く新しい可能性」

◆ 講演者：石川 慎一郎（神戸大学教授）

◆ 概要：英語の自然な語法やワーディングに自信が持てず、論文作成に苦勞する研究者は多い。だが、コーパス言語学の進展によってアカデミックライティングにも大きな展望が切り開かれつつある。コーパスは、言語研究の資源としてはもちろん、幅広い研究者にとっての画期的なライティングツールともなる。その仕組みと活用法について、我が国におけるコーパス言語学の第一人者が語る。

### 第2部 パネルディスカッション 14:50～16:20

#### 「研究者として生き残るための英語力：英語をめぐる苦勞、そして克服への道」

◆ パネリスト：畠山 昌則（東京大学大学院教授 微生物学）

松本 涼（福井県立大学講師 ヨーロッパ中世史）

山本 裕（京都大学名誉教授 システム制御理論）

◆ 司会・パネリスト：松田 恭幸（東京大学大学院教授 物理学）

◆ 概要：非英語圏の研究者がぶつかる「英語の壁」。現在第一線で活躍する研究者として例外ではない。研究者はどのように英語の壁に向き合い、乗り越えてきたのか。研究者に必要な言語技能とは何か。様々な分野で活躍する4名の研究者が自身の経験を元に語り合う。

### 第3部 講演およびワークショップ(同時開催) 16:30～17:30

#### (1) 講演：「理工系研究者のための英語」

■ 講師：金谷 健一（岡山大学名誉教授 コンピュータビジョン）

■ 概要：数理的内容の英語論文を対象とし、日本人研究者が最も苦手とする冠詞(不定冠詞、定冠詞、無冠詞)の使い方を具体的な英文例を用いて解説する。

#### (2) ワークショップ：「英語論文執筆の落とし穴と安全網」

■ 講師：トム・ガリー（東京大学大学院教授）

■ 概要：「PR力の高いアブストラクトの書き方」から「単数・複数の使い分け」まで、英語で論文を執筆するときに数々の難題に直面する。このワークショップでは、30年以上日本人の英語と付き合った講師が参加者から寄せられた質問に様々な対応策を提案する。

懇親会 17:45～19:30 (18号館4階オープンスペースにて) ※懇親会も参加費無料です。奮ってご歓談ください！